

第二期まち・ひと・しごと創生総合戦略実績報告書(令和3年度)【概要】

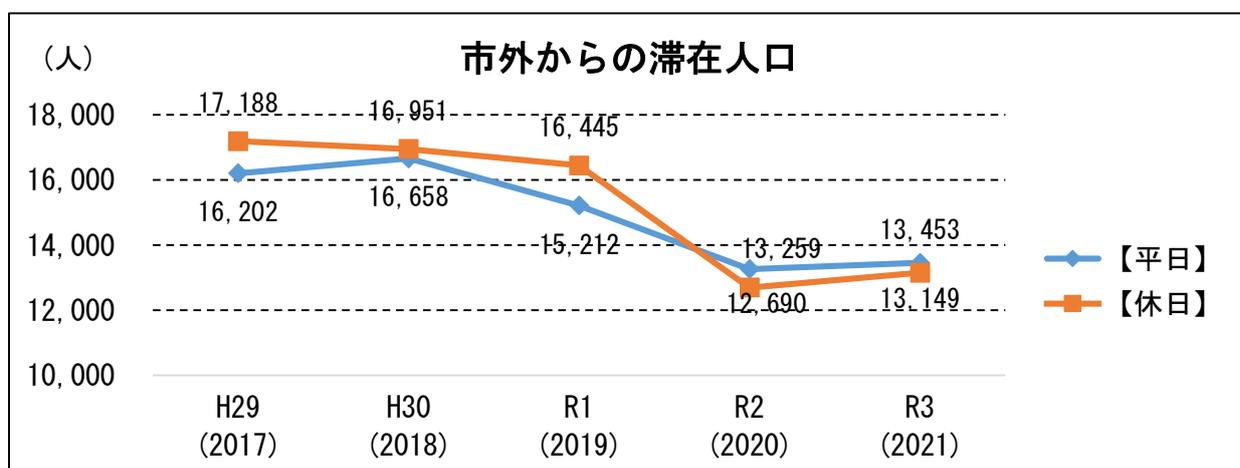
【基本目標1 まちの魅力を向上させ、新たなひとの流れをつくる】

1 数値目標

指標	評価	R3
		現況値
市外からの平日の滞在人口	△	13,453人
		16,660人
市外からの休日の滞在人口	△	13,149人
		16,951人

【指標の評価について】

- ◎：目標値達成（目標値以上）
- ：現況値超目標値未満
- △：現況値以下
- ：数値が判明していない等
- ※ 現況値：平成30年度



2 具体的施策（7施策25事業）

施策	重要業績指標 (KPI)	評価				
		主要要因 (CSF)				
		◎	○	△	—	計
戦略的な情報発信	◎	2	1	1	0	4
創業を希望している市民への支援	○	0	0	2	0	2
産業の振興と雇用の促進	△	2	0	3	0	5
時代のニーズに対応する農業の創造	○	0	2	2	0	4
個性豊かな観光施策の推進	△	1	3	1	2	7
利便性の高い公共交通網の形成	△	0	1	0	0	1
にぎわいと活力ある魅力的なまちづくり	◎	1	1	0	0	2
合計	—	6	8	9	2	25

### 3 総論

#### 【総括】

- 交流人口の増加の視点から施策を展開している。
- 数値目標に掲げる「滞在人口」については、新型コロナウイルス感染症の影響で低迷している。
- 現況値と比較すると、半数以上の事業が現況値を上回っている。

#### 【施策別】

- 「戦略的な情報発信」については、新型コロナウイルス感染症関連の情報発信を行っていたため、KPIの目標値を達成するとともに、現況値を上回った事業が多い。
- 「創業を希望している市民への支援」については、新型コロナウイルス感染症の影響がまだ残っており、現況値を上回る事業はなかった。
- 「産業の振興と雇用の促進」については、昨年度に比べ現況値を上回る事業が増加した。また、市内全体の産業振興等を計画的に進めるため、産業振興ビジョンを策定した。
- 「時代のニーズに対応する農業の創造」については、現況値を上回った事業は2事業となった。
- 「個性豊かな観光施策の推進」については、イベントの中止やかたくりの湯の休館・時短営業など新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、KPIの実績値が現況値を下回った。
- 「利便性の高い公共交通網の形成」については、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、KPIの実績値が現況値を下回った。
- 「にぎわいと活力ある魅力的なまち・まちづくり」については、全ての事業で現況値を上回っている。

### 4 外部有識者（まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会）からの意見

- 脱炭素について、産業振興ビジョンにおける施策に反映してもらえると良い。
- 観光協会のホームページについて、これから充実させていくことが、このSNSが流行っている時代で重要だと思っているので、そのあたりの支援があると良い。
- SNSはお金をかけなくても、アイデア次第で発信力を強めることができるが、本市ではSNSの告知が少なく感じる。もっと情報発信に力を入れていただきたい。
- 魅力マイスターになった方からも情報発信してほしいと市は考えていると思うので、それを成立させるための施策があると良い。
- 地域ブランド認証商品について、大勢の目につくところで認証品を集めて販売するというものがあると、認証品を扱う事業者のメリットにもなり注目度も上がると思う。
- 武蔵村山市は歴史があるまちなので、地域資源をうまく発信し活用して行けるとよい。
- 農地について、個人だけに頼るのではなく法人として受け皿を作り、主たる農業者が亡くなっても農地として相続できるような体制が必須だと思うので、法人化について真剣に検討していただきたい。
- かたくりの湯について、常に予算的に厳しいという状況があるが、市民ファンドを活用してみてもどうか。市民等が出資をして、事業の成り立ちに応じてリターンを得る形をとることで、かたくりの湯の経営を自分事として考えられる。

## 【基本目標 2 若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶える】

### 1 数値目標

指標	評価	R3
		現況値
合計特殊出生率	△	1.37 (※)
		1.55
「武蔵村山市は安心して子どもを産み育てることができるまちだと思う」人の割合	—	調査未実施
		72.1%

#### 【指標の評価について】

◎：目標値達成（目標値以上）

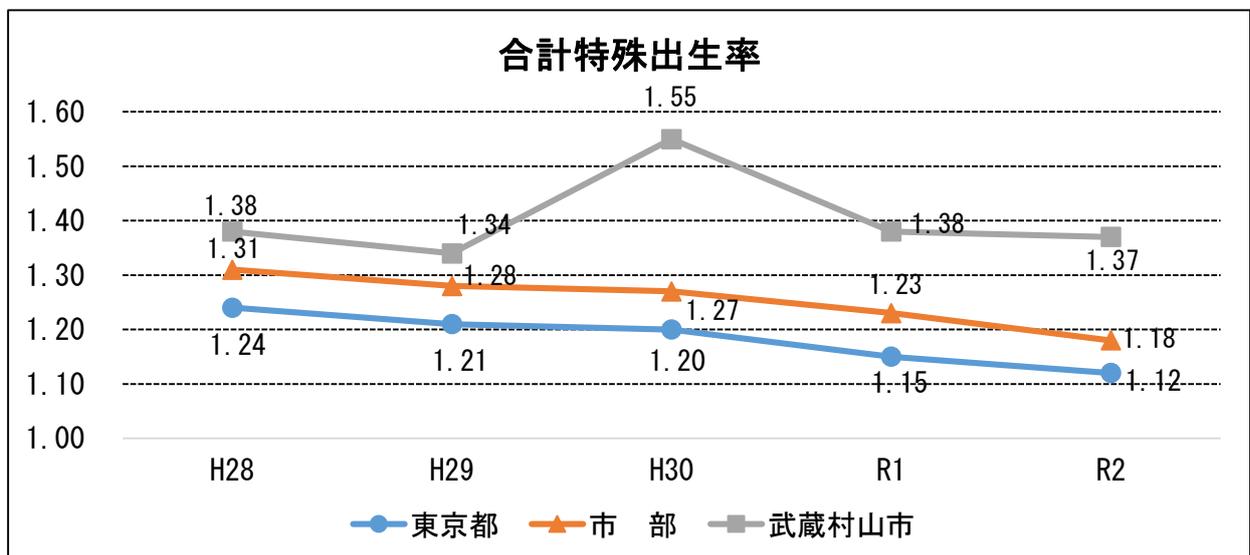
○：現況値超目標値未満

△：現況値以下

—：数値が判明していない等

※ 現況値：平成 30 年度

※ 合計特殊出生率については、例年、冬頃、区市町村別の数値が公表される。そのため、実績値は前年の数値である。



### 2 具体的施策（4施策 20事業）

施策	重要業績指標 (KPI)	評価					計
		主要要因 (CSF)					
		◎	○	△	—		
結婚・妊娠・出産・子育てへの支援	○	4	2	2	0	8	
子育てしやすいまちづくり	—	1	1	3	1	6	
子どもの知力・体力の向上	◎	0	1	3	0	4	
教育環境の整備	△	0	0	2	0	2	
合計	—	5	4	10	1	20	

### 3 総論

#### 【総括】

- 年少人口及び将来的な生産年齢人口の増加を図る視点から施策を展開している。
- 数値目標に掲げる「合計特殊出生率」については、現況値と比較すると減少しているが、49区市で2番目の数値である。(令和2年度実績)
- 数値目標に掲げる「武蔵村山市は安心して子どもを産み育てることができるまちだと思おう」については、計画策定時のアンケート調査項目であり、令和3年度はアンケート調査を実施していない。
- 現況値と比較すると、多くの事業が現況値と同等又は下回っている。

#### 【施策別】

- 「結婚・妊娠・出産・子育てへの支援」については、新型コロナウイルス感染症の影響下でも多様な保育サービスを継続し、半数以上の事業が現況値を上回っている。
- 「子育てしやすいまちづくり」については、KPIが計画策定時のアンケート調査項目であり、令和3年度はアンケート調査を実施していないため、数値が不明である。  
また、新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントが中止となる等の理由で現況値を下回る事業もあった。
- 「子どもの知力・体力の向上」については、KPIが目標値を達成した。  
その他事業については、現況値を上回ったのは1事業となった。
- 「教育環境の整備」については、全ての事業において、現況値を下回った。

### 4 外部有識者（まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会）からの意見

- 子育て・教育について予算を使えば、最終的にプラスになって返ってくるという視点が大事である。明石市の取組を研究してもらい、子ども・子育て・教育に思い切った予算付けを行うという姿勢を学んでいただきたい。
- 横田基地との交流について、行政が交流を推進するよりも民間主導で進めていった方がより活発な交流につながっていくのではないかと思う。
- 母子面談について、きめ細かい対応につながっているようである。  
ニーズを持っている方とつながるのは難しいため、早期からの接触、アプローチは今後も必要だと思う。ぜひ今後も続けていただきたい。
- ハグはぐ・むらやまについて、素晴らしい取組だと思う。  
相談であれば、男女共同参画センターにつなげる場、子育て支援団体や様々な市民のネットワーク、公共施設のネットワーク等を紹介する場にしてもらえると、ハグはぐの事業がより充実したものとなると思う。
- 不登校児童に対する支援について、eスポーツを取り入れた支援など、時代に取り残されないように、様々な方法を模索して取り組んでいただきたい。

## 【基本目標3 誰もが安心して暮らし続けられる地域をつくる】

### 1 数値目標

指標	評価	R3
		現況値
これからも本市に住み続けたいと思う人の割合	—	調査未実施 31.1%
20歳代の転出者割合	△	13.5%
		12.6%

#### 【指標の評価について】

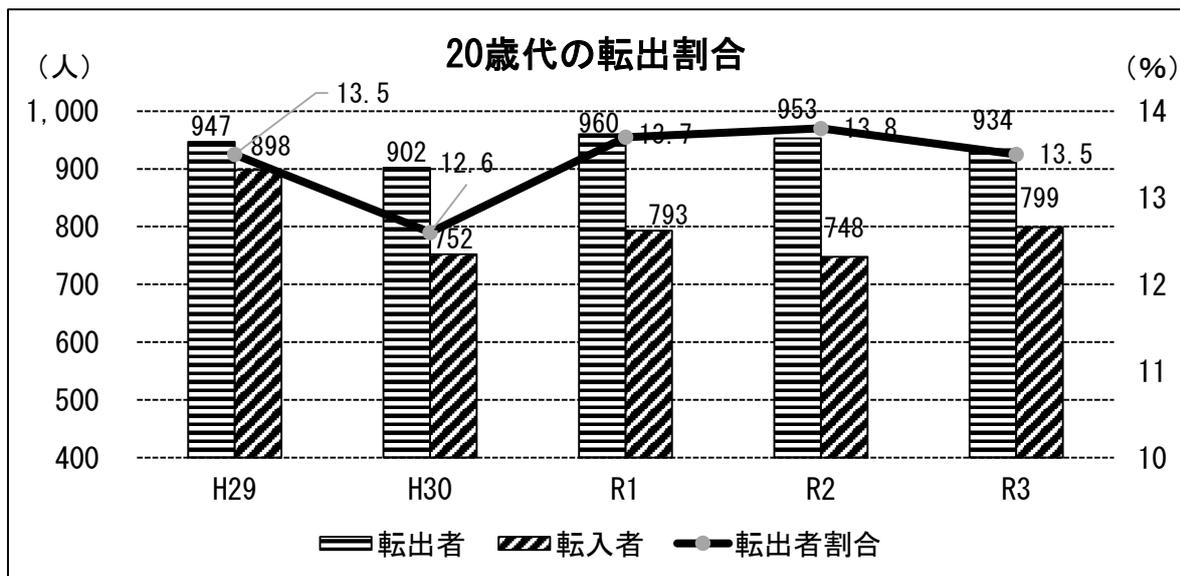
◎：目標値達成（目標値以上）

○：現況値超目標値未満

△：現況値以下

—：数値が判明していない等

※ 現況値：平成30年度



### 2 具体的施策（3施策14事業）

施策	重要業績指標 (KPI)	評価				
		主要要因 (CSF)				
		◎	○	△	—	計
交通利便性や買い物環境の向上に向けたまちづくり	—	0	0	2	0	2
安心して暮らせるまちづくり	◎	1	1	0	0	2
健康でいきいきと暮らせるまちづくり	—	1	5	4	0	10
合計	—	2	6	6	0	14

### 3 総論

#### 【総括】

- 「住み続けたい」と思うまちづくりを進める視点から施策を展開している。
- 数値目標に掲げる「これからも本市に住み続けたいと思う人の割合」については、計画策定時のアンケート調査項目であり、令和3年度はアンケート調査を実施していない。
- 数値目標に掲げる「20歳代の転出者割合」については、転出者が増加し、転出者割合も増加した。
- 現況値と比較すると、半数以上の事業が現況値を上回っている。

#### 【施策別】

- 「交通利便性や買い物環境の向上に向けたまちづくり」については、KPIが計画策定時のアンケート調査項目であり、令和3年度はアンケート調査を実施していないため、数値が不明である。
- 「安心して暮らせるまちづくり」については、防災対策を計画的に行ったため、KPIの目標値を達成するとともに、全ての事業で現況値を上回った。
- 「健康でいきいきと暮らせるまちづくり」については、新型コロナウイルス感染症対策を行った事業の実施等から、半数以上の事業が現況値を上回った。

### 4 外部有識者（まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会）からの意見

- 交通について、MMシャトルやむらたくで市内全体をうまく移動できないと感じている。高齢化率が上がる中、高齢者、あるいは子育てしている方においても移動の問題は出てくると思う。引き続き検討いただきたい。
- 市民の方に、MMシャトルの便利さのアピールや乗らないと路線がなくなってしまうという発信をしていくことも重要だと思う。
- 防災士資格取得助成事業について、ぜひ今後も目標に向かって進めていただきたい。
- 防災訓練について、毎年、最低でも1割程度は、市主催でないものも含め、何らかの防災訓練に参加できるような体制が必要だと思うので、ぜひ具体的な取組をお願いしたい。
- お互いさまサロンについて、地域力向上のために非常に良い取組だと思っている。本来のお互いさまサロンは「子どもからお年寄りまでだれもが垣根なく「お互いさま」でつながるまちづくり」という目標だが、現状は高齢福祉課が所管しており、運営する人も参加者もほとんど高齢者のため、ぜひ子ども子育て支援課なども一緒に横断的な支援を行っていただきたい。
- 健康教室について、イメージ的に高齢者が行くものという意識があるのではないかと思うので、例えば「子育て中のママのためのピラティス教室」や「仕事でデスクワークの人への肩こり予防教室」というようにターゲットを明確にし、名前を入れて教室名等を考えられれば良いと思う。
- 運動する機会というのは全体的に減っており、親にスポーツ習慣がないために子どもの体力測定の結果があまり良くない状態になっているというのもあるかと思うので、地域のスポーツ活動と子どもの体力増進を一体的に考えられると良いと思う。